

# 白内障

## KEY WORDS

- 加齢白内障
- 眼内レンズ
- 薬物治療
- 白内障手術

Cataract.

Daijiro Kurosaka(教授)

岩手医科大学眼科学講座 黒坂大次郎

## はじめに

白内障とは、水晶体の透明性が障害され混濁した疾患である。水晶体は、屈折(焦点を合わせる機能)以外にも、見るものの距離によって屈折力を変化させ、遠くのものでも近くのものでも焦点が合うようにする調節機能を担う。白内障の原因には、先天性、代謝障害(糖尿病)、外傷、薬剤(ステロイドなど)、他の眼疾患に伴うもの(ぶどう膜炎など)があるが、加齢に伴うものが最も多く、80歳以上では、ほぼすべての人に混濁が認められる(ただ、水晶体の周辺部だけが混濁している人では、実際の機能上の問題は生じない)。この年齢では、すでに水晶体の硬化により調節機能を失っており(老視)、この状態に、水晶体の混濁が加わって視機能障害を生じてくるのが白内障である。今回は、高齢者に生じてくる加齢白内障の症状・診断・治療などについて解説したい。

## I. 白内障の症状と診断

白内障の症状は、混濁が軽度の場合には無症状のことが多い。混濁が進行すると、羞明(まぶしさ)、霧視(霧がかかったように白濁して見える状態)、昼盲(明るい場所で視力が低下する状態)、屈折変化(近視化、乱視など)、複視(単眼でものが複数にダブって見える状態)を訴える場合がある。水晶体の混濁部位によって症状が異なる。

加齢とともに進行してくる代表的な混濁に核硬化白内障がある(図1)。水晶体中心部の混濁で、徐々に褐色に着色するとともに硬度が増し、屈折力が増加し、近視化を伴う(老眼が治ったと初期は感じることが多い)。著しく核の硬度が増加すると、後述する超音波乳化吸引術での破碎が困難になる。そのほか、紫外線との関連が報告されている皮質白内障や中心部の混濁であるため、縮瞳状態(明所)で見にくく、散瞳状態(暗所)で見やすい昼盲の症状